

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

・ 定員充足の見込み

岡山大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 21 年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増を、平成 22 年度に「経済財政改革の基本方針 2009」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 7 名の臨時定員増を、平成 23 年度には「新成長戦略」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 3 名の臨時定員増を、また、平成 30 年度には、平成 29 年度までの期限を付した増員暫定措置の延長として平成 31 年度までの期限を付した 2 名の臨時定員増をそれぞれ実施した。さらには、平成 21 年度に「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増を実施した。

令和 6 年度を期限とする 9 名（地域枠：岡山県 4 名，広島県 2 名，鳥取県 1 名，兵庫県 2 名）の入学定員について、令和 7 年度までの期限を付した再度の入学定員増においては、地域枠 7 名（地域枠：岡山県 3 名，広島県 2 名，兵庫県 2 名）の入学定員増を行った。令和 8 年度においても地域における医師不足の解消と地域の医師確保等に対応するために認可を受けた地域枠としての臨時的な定員 6 名（岡山県 2 名，広島県 2 名，兵庫県 2 名）に加え、令和 8 年度から研究医の養成を目的として、認可を受けた研究医枠としての臨時的な定員 2 名の入学定員増を行い、令和 8 年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の 100 名から 108 名に変更する。

本学医学部医学科の令和 2 年度から令和 7 年度の 6 年間の志願者数（一般入試，推薦入試，国際バカロレア入試，私費外国人特別入試）は、349 名から 600 名の間で推移しており、平均志願者数は 441 名で、平均志願倍率は 4.00 倍である。

このうち、岡山県，広島県及び兵庫県の地域枠コース志望者を対象とする推薦入試の状況は、次のとおりである。

・ 岡山県地域枠

令和 2 年度～令和 7 年度（入学定員 4 名）

志願者数 22 名から 37 名

平均志願者数 30.8 名

平均志願倍率 7.7 倍

入学定員充足率 100%

・ 広島県地域枠

令和 2 年度～令和 7 年度（入学定員 2 名）

志願者数 4 名～20 名

平均志願者数 10.8 名

平均志願倍率 5.4 倍

入学定員充足率 58.3%

・ 兵庫県地域枠

令和 2 年度～令和 7 年度（入学定員 2 名）

志願者数 11 名～27 名
平均志願倍率 8.8 倍

平均志願者数 17.6 名
入学定員充足率 83.3%

本学医学部医学科の推薦選抜では、その他の選抜との学力差を生じないように、大学入学共通テストの基準点（令和6年度までおおむね780点、令和7年度からおおむね820点）を厳格に設定している。そのため、令和2年度選抜、令和3年度選抜において欠員を生じた県があり、県との高校訪問や説明会をよりきめ細やかに開催するとともに、令和4年度選抜以降は第二次募集を実施している。なお、第二次募集においても、十分な学力担保のため、大学入学共通テストの基準点を設定している。令和6年度選抜で広島県に1名の欠員が生じたものの、それ以外は定員を充足している。入試説明会やオープンキャンパスでは、地域枠コースに関する説明、本学地域医療人材育成講座の教員による個別質問ブース及び地域枠の在学生との質疑応答の場を設定しており、受験予定者が高い興味を示している様子が見られる。また、高等学校による大学訪問の際にも同様の機会を設定している。そのため、次年度以降においても相当の志願者及び受験者が見込まれることから、明確な目的意識を持った優秀な学生の確保が可能である。

《入学試験実施状況（一般入試、推薦入試、国際バカロレア入試、私費外国人特別入試）》

区分・ 入学年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
募集人員	112	112	112	109	109	107
志願者数	465	424	600	349	376	435
志願倍率	4.2	3.8	5.4	3.2	3.4	4.1
受験者数	412	382	415	326	336	336
入学者数	110	108	112	109	108	107
定員充足率	98%	96%	100%	100%	99%	100%

《推薦入試（岡山県地域枠コース）実施状況》

区分・ 入学年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
募集人員	4	4	4	4	4	4
志願者数	35	33	22	25	37	33
志願倍率	8.8	8.3	5.5	6.25	9.25	8.25
受験者数	29	33	21	23	35	23
入学者数	4	4	4	4	4	4
定員充足率	100%	100%	100%	100%	100%	100%

《推薦入試（広島県地域枠コース）実施状況》

区分・ 入学年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
募集人員	2	2	2	2	2	2
志願者数	10	4	5	14	12	20
志願倍率	5.0	2.0	2.5	7.0	6.0	10.0
受験者数	7	4	4	12	5	12
入学者数	0	0	2	2	1	2
定員充足率	0%	0%	100%	100%	50%	100%

《推薦入試（兵庫県地域枠コース）実施状況》

区分・ 入学年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
募集人員	2	2	2	2	2	2
志願者数	22	11	18	13	15	27
志願倍率	11.0	5.5	9.0	6.5	7.5	13.5
受験者数	16	11	16	12	11	14
入学者数	2	0	2	2	2	2
定員充足率	100%	0%	100%	100%	100%	100%

研究医枠については、令和8年度から研究医枠のための入学者選抜は予定しておらず、入学後、2年次に進級するまでに一般選抜、国際バカロレア選抜入学者、2年次編入学入学予定者から研究医コース所属希望者を募り、選考予定である。Pre ARTプログラムを開始した平成21年度から令和7年度までの履修者数は、下記のとおりであること、また、令和8年度の2年次編入学入学予定者からPre ARTプログラム履修を必須としたことから、研究医を目指し、学部時代から研究に従事しようとする優秀な学生の確保が可能である。

《Pre ARTプログラム履修者数》

平成21 年度	平成22 年度	平成23 年度	平成24 年度	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度
13	29	24	25	25	41	7	31	26

平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
39	26	20	20	47	16	13	42

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

地域枠については、本学で開催する入試説明会（高校教員向け、受験生向け）、オープンキャンパスに加え、県が主催している説明会において、地域枠コースや地域医療に関する説明や質疑応答を行っている。オープンキャンパスでは、地域枠の在學生も参加し、受験予定者からの質問に対応してもらっている。また、令和2年度選抜、令和3年度選抜において欠員であった広島県に関しては、広島県担当者と本学地域医療人材育成講座の教員が高校を訪問し、地域枠に関する説明を行っている。令和5年度、令和6年度に文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の一環で、岡山大学、島根大学、香川大学、鳥取大学による「高校生向け地域枠・地域医療合同説明会」を開催し、オンデマンドでも視聴可能なように、本学のWEBオープンキャンパスのコンテンツとして掲載している。高等学校による大学訪問の際には、地域枠人材育成講座の教員が地域枠の説明を行ったり、同校の出身かつ地域枠の学生との交流の場を設けたりしている。

以上のように、地域枠コースや地域医療をまずは知ってもらうところから、興味はあるが分からないことがあって心配だという気持ちを抱える高校生やその保護者に対して個別に丁寧に説明を行っていくことにより、学生確保に努めている。

また、研究医枠については、令和7年度から、年度初めの各学年のオリエンテーションで大学院進学の必要性やPre ARTプログラム履修可能年次が3年次から1年次に変更となったこと等を説明する機会を設けた。また、オープンキャンパスでは、本学を進学候補として考えている高校生に、研究の重要性やPre ARTプログラム、ATRプログラムの紹介、Pre ARTプログラムを履修している在學生との質疑応答を行った。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

本学医学部医学科では、「医の倫理に徹し、科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し、生涯学習を通じて社会的信頼を得るに足る臨床医並びに医学研究者を養成し、もって人類及び国際社会の健康と福祉に貢献する」ことを使命としている。

この使命を果たすため、臨時定員の地域枠、研究医枠申請に関し、以下の2点を目的に掲げている。

【地域医療への貢献】

中国・四国地方から近畿西部地域にわたる広範な関連病院との連携を通じ、地域医療を担う上で必要な総合的診療能力を有する医師を育成する。また、地域医療の充実や医師確保に関する教育・研究を推進し、地域の医療現場や行政と協働し、適切な地域医療提供体制の構築に貢献する。

【次世代の医学研究者の養成】

臨床医の養成だけでなく、医学研究者の養成も本学医学部医学科の重要な使命である。我が国の医学系大学院進学者における基礎系（MD）の割合が横ばいであり、その結果、国際的な研究競争力が低下しているという課題がある。この課題に対応するため、国策として設置された研究医枠を最大限に活用し、研究者を積極的に養成する。

特に、本学は令和5年度に「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択された国内有数の研究大学として、医学研究の発展を牽引する責任を担っている。臨床と研究を高いレベルで両立できる研究医を継続的に輩出し、我が国の医学研究の発展に貢献する。

（2）上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

【地域枠】

本学医学部医学科の地域枠は、中国・四国地方及び近畿西部地域における喫緊の医療課題に対応するものである。岡山県は医師多数県とされているが、県北地域や中山間地域、特に二次医療圏の高梁・新見、真庭における医師不足が課題となっている。また、診療科偏在については、小児科は真庭圏域、産婦人科は高梁・新見圏域、真庭圏域が、それぞれ相対的医師少数区域にあたる。また、県南東部（岡山市を除く）、高梁・新見、真庭では65歳以上の医師の割合が増加しており、将来的な医療提供体制の維持が困難になりつつある。

広島県では、岡山県に隣接等する県東部地域（福山・府中圏域、尾三圏域）における医師偏在指標が、全国平均を下回っており、県内7圏域の中で最も低い。特に小児科医や分娩取扱医師の偏在が顕著であり、小児科医偏在は2圏域（広島中央、福山・府中）、分娩取扱医師偏在指標は、3圏域（広島西、広島中央、福山・府中）が全国の下位1/3に該当している。

兵庫県の医師偏在指標は全国平均を上回っているものの、二次医療圏別では、神戸、阪神、東播磨圏域以外は全国平均を下回っており、地域偏在が生じている。特に、分娩取扱医師偏在指標は、全国の下位1/3に該当しており、県全体で地域医療体制の確保が課題となっている。

これらの課題を背景に、各県からは今後の人口動向を見据えた上で、本学医学部医学科に対し地域医療を担う医師育成のため、地域枠設置の継続を求める希望が寄せられている。従って、地域枠は社会的・地域的な人材需要を客観的に反映したものである。

【研究医枠】

我が国では、医学系大学院進学者における基礎系（MD）の割合が約30年間横ばいであり、その結果、基礎医学分野における国際競争力が低下していることが課題となっている。この状況に対応するため、平成22年度より「経済財政改革の基本方針2009」に基づき、研究医養成を目的とした「研

研究医枠」の臨時定員増が実施されてきた。近年の文部科学省における「今後の医学教育の在り方に関する検討会」でも、研究医枠は医学生の研究マインド涵養に効果があると評価されている。

本学は、全国に先駆けて、平成21年度から独自のプログラムを導入し、研究医の養成に尽力してきた。

- ・ARTプログラム：初期臨床研修と大学院進学を両立させ、臨床経験を活かしながら早期に博士学位を取得可能とするプログラムで、17年間で106名が入学している。
- ・Pre ARTプログラム：学部時代から研究活動や大学院講義を先取り履修するプログラムで、17年間で延べ444名の学生が履修している。

これらの取組はすでに成果を上げており、本学医学部医学科から大学院に進学した学生のうち、基礎医学分野を選択した29名中18名(62.1%)が「ARTプログラム」での入学者であった。さらに、ARTプログラムの修了者からは、若くして国立大学の基礎医学系教授や講師として活躍する人材が輩出されている。

これらの実績を踏まえ、令和7年度から「ARTプログラム」をさらに発展させ、専門医資格取得と大学院進学を両立させる「ARTⅡプログラム」等を新設する。また、「Pre ARTプログラム」の履修開始年次を3年次から1年次に早め、より早期から研究マインドを養成する環境を整備する。

これらの施策により、より多くの学生に研究活動を体験させるため、令和8年度から研究医枠の臨時定員を新規申請し、「令和8年度の医学部臨時定員増について」（令和7年7月29日付け事務連絡）により入学定員2名の増員が認められた。これは、研究医養成という社会的要請に応えるものである。